

JANOG Meeting 42 レポート

情報科学専門学校 情報セキュリティ学科 3年 中川 稜

1 はじめに

私は今回で JANOG 本会議には 3 回目の参加となりました。今回の JANOG は新たなつながりができ、また自らつたえることができた回となりました。

以前から JANOG は議論をする場なのに自分からは何もつたえてないなと考えていたので今回はメインプログラムに応募をし「短期間で開催される大会/イベントにおけるバックボーン構築について」というタイトルで登壇もしました。

2 JANOG Meeting 42 の感想

全体的に今回のプログラムは自分にとって共感ができる内容が多かったです。

特に印象に残ったプログラムは「ネットワーク運用自動化 BoF」・「その運用自動化では行き詰まる」の自動化についてのプログラムです。このプログラムでは自動化をしたが運用の質が上がらないのはなぜかという議論を行いました。私が行っているバイト先やプロジェクトでも自動化に取り組んでいて私も自動化 1 週目の人です。みなさんがどのようなところで苦しんでいるかが新たに知ることができ共有できました。後の人につながらないもの、例えばドキュメントを残さないというところは今後私も気をつけようと考えます。

また JANOG 初となるハッカソンイベントの発表「ハッカソン Wrap-up & Winner」も興味深かったです。ツールやコードを書くとともに便利なものが作れることを知れて、今後自分でも何かの開発してみようと考えようになりました。しかし優勝したチーム以外がどんなテーマで取り組んでいたかは分かりましたが、何を使った・どこまでの内容ができたというのが分からなかったのが他のチームも簡単な資料だけでも作って JANOG のサイトにあげていただけると次回以降やってみようと考えている人の参考になったりしてハッカソンがより盛り上がると思います。

私達のプログラムではみなさんどんなふうにプロジェクトを進めていたかの話しを色々な方面から伺うことができ実のある議論ができました。しかし詳しい技術についての議論はやはり難しいというのがあり細かく議論ができなかったのが残念でした。JANOG では詳しい技術の話しになると議論出来る人がいない・少ないという印象があります。

3 終わりに

今回の JANOG を通して、自ら発表そして法律問題から技術様々な内容のプログラムにより一層自分の知識や発信力が高められました。学生のうちにこういう社会人だけのコミュニティに話題を発信していくことでエンジニア歴が長い社会人と若い学生のお互いがどんな考えをしているかが共有でき次につながるようになります。

また最後になりましたが、若者支援プロジェクト運営委員会の皆様今回もありがとうございます。

平成 30 年 7 月 19 日(木)

いました。今回特に 1 日目の懇親会で碎けていろいろな人とお話ができる場を設けていただいたおかげで 2 日目以降の交流がとても話しやすくなりました。

次回も JANOG コミュニティを盛り上げる為何かしらの形で参加したいと考えています。